

## 令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 梅島第二小学校 校長 竹花 正徳

## 1 学校教育目標

○ゆたかな子 ○かんがえる子 ○つよい子

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視して、生涯を通して知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。

## 2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ①読書に親しみ、本の楽しさを味わい、豊かな心情を身に付ける。
- ②様々な資料から、必要な情報を選択し学習に活用する力を身に付ける。
- ③学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、読書に対する意欲を高める。

## 3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 10,599 冊（蔵書基準冊数 7,960 冊）／ 蔵書率 133%（前年度末 129%）									
	② 新規購入図書 690 冊 / 廃棄図書 406 冊 / 増減冊数 284 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1%	1%	6%	7%	10%	4%	3%	6%	3%	59%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：月～金 中・昼休み									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 33 冊（前々年度末： 40.8 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 90.8%（前々年度末： 91.4%）									

## （令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 10,853 冊（蔵書基準冊数 7,960 冊）／ 蔵書率 136.3%									
	② 新規購入図書 475(内寄贈 221 冊)冊 / 廃棄図書 442 冊 / 増減冊数+33 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.2%	0.8%	6.3%	6.9%	11%	4.9%	3.2%	5.5%	2.9%	57.4%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：8:45～15:30 (前年度からの変更 あり(なし))									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 33.6 冊（前年度末： 33 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 87.0%（前年度末： 90.8%）									

## 4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>①やさしい読み物を楽しんで読もうとする意欲を育てる。</li> <li>②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。</li> </ol>
------	--

今年度の成果目標	達成基準
<ol style="list-style-type: none"> <li>①読書の時間を継続的に行い、読書の経験を重ねる。</li> <li>②学校図書館の利用の仕方を知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各学級週に1時間「図書」の時間を設け、学校図書館を利用する。</li> <li>②年間一人あたり150冊以上が90%、250冊以上の本を読む児童が40%になる。</li> <li>③図書館利用前に、図書館利用のオリエンテーションを行う。</li> </ol>

目標達成状況
<ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的に週に1時間の図書の時間を取り、学校図書館を利用することができた。</li> <li>②記録では、年間150冊以上読むことができた児童は約4割だった。(年度途中まで記録を取ることができなかったため、正確な冊数は不明)</li> <li>③初めて学校図書館を利用する時、支援員にオリエンテーションを実施してもらった。</li> </ol>

<b>第2学年</b>	①いろいろな読み物を楽しんで読もうとする意欲を育てる。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる
<b>今年度の成果目標</b>  ①読書の時間を継続的に行い、読書の経験を重ねる。 ②図鑑などの読み物を活用する。 ③学校図書館の利用のきまりを守る。	<b>達成基準</b>  ①各学級週に1時間「図書」の時間を設け、学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり150冊以上が90%、250冊以上の本を読む児童が40%になる。
<b>目標達成状況</b>	
①基本的に週に1時間の図書の時間を設定し、学校図書館を利用することができた。 ②年間で150冊以上読んだ児童は約40%、250冊以上読んだ児童は10%だった。	
<b>第3学年</b>	①いろいろな読み物を楽しんで読もうとする意欲を育てる。 ②図鑑や、辞典を活用して情報を収集し活用できる力を育てる。
<b>今年度の成果目標</b>  ①自分の興味があるものから、関連する本へと読書の幅を広げることができる。 ②辞典や図鑑を活用する。 ③学校図書館のきまりを守り、読書をする。	<b>達成基準</b>  ①各学級月に3回以上「図書」の時間を設け、学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり2000ページ以上が80%、3000ページ以上の本を読む児童が40%になる。
<b>目標達成状況</b>	
①基本的に週に1回以上の図書の時間を設定したので、月4回程度学校図書館を利用することができた。 ②年間で2000ページ以上読んだ児童が約90%、3000ページ以上読んだ児童は約70%だった。	
<b>第4学年</b>	①いろいろな読み物を楽しんで読もうとする意欲を育てる。 ②図鑑や、辞典を活用して情報を収集し活用できる力を育てる。
<b>今年度の成果目標</b>  ①自分の興味があるものから、関連する本へと読書の幅を広げることができる。 ②辞典や図鑑を活用し、わかったことをまとめる。 ③学校図書館のきまりを守り、読書をする。	<b>達成基準</b>  ①各学級月に2回以上「図書」の時間を設け、学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり2000ページ以上が80%、3000ページ以上の本を読む児童が40%になる。
<b>目標達成状況</b>	
①各学級で月2回程度は学校図書館を利用することができた。 ②年間2000ページ以上読んだ児童は約50%、3000ページ以上読んだ児童は約40%だった。	

<b>第5学年</b>	①読書を通して、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 ②自分の目的に合わせて、適切に資料を選び、情報を収集し活用できる力を育てる。
<b>今年度の成果目標</b>  ①自分の課題に合った、本や資料を選ぶことができる。 ②様々な資料から、わかったことをまとめて、説明することができる。 ③学校図書館のきまりを守り、利用の仕方を工夫して読書をする。	<b>達成基準</b>  ①各学級月に1回以上読書や資料活用で、学校図書館を利用する。 ②年間一人当たり3000ページ以上が80%、5000ページ以上の本を読む児童が40%になる。
<b>目標達成状況</b>  ①学級での学校図書館の利用は2～3か月に1回程度だった。 ②年間で3000ページ以上読んだ児童は1名だけだった。	
<b>第6学年</b>	①読書を通して、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 ②自分の目的に合わせて、適切に資料を選び、情報を収集し活用できる力を育てる
<b>今年度の成果目標</b>  ①自分の課題に合った、本や資料を選び活用する。 ②様々な資料から、わかったことをまとめて、説明することができる。 ③学校図書館のきまりを守り、利用の仕方を工夫して読書をする。	<b>達成基準</b>  ①各学級月に1回以上読書や資料活用で、学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり3000ページ以上が80%、5000ページ以上の本を読む児童が40%になる。
<b>目標達成状況</b>  ①年間で学級での図書室の利用はなかった。(個人での利用のみ) ②年間3000ページ以上読んだ児童は約15%、5000ページ以上読んだ児童は約10%だった。	

## 5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
<b>【蔵書・配架等に関すること】</b> ①既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を8月中に完了させる。 ②廃棄図書を早期に確定させ、蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を作成する。 ③学校図書館の本から、各学級に「学級図書」を貸し出す。	①新規図書の受け入れは、寄贈の物等も含め、年間を通して実施した。 ②新規図書の受け入れと同じく、廃棄も年間を通して実施した。 ③年度の最初と途中の年2回、学級図書の貸し出しを実施した。
<b>【学校図書館支援員との連携・協働】</b> ①学校図書館オリエンテーションの実施や読書支援等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。 ②国語や社会科等各教科で必要な資料について、相談や情報交換を行う。	①低学年への図書館のオリエンテーションや、各学年への支援等、連携を取りながら運営をすることができた。 ②各教科で必要な資料の収集・情報交換を実施した。
<b>【その他】</b> ①貸出冊数・期間：1回あたり2冊まで2週間とする。(全学年) ②長期休業期間中は、読書の貸し出し冊数を1回あたり5冊までとする。 ③読書旬間：6月、10月に実施 ・図書委員会による本の紹介やスタンプラリー等を実施し、児童	①②貸し出し冊数、期間共に計画的に貸し出しを実施することができた。 ③6月、11月の年2回、読書旬間を実施した。 ・図書委員会による本の紹介ポスタ

の読書意欲の向上を図る。  
・旬間中は貸し出し冊数を5冊までとする。

一、クイズ、スタンプラリーの実施。  
・貸し出し冊数を5冊に変更した。

## 6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

・外遊びができる時間が増えたこと、タブレット端末を個人で利用できるようになったこともあり、全体的に図書室を利用する機会は減っているように感じた。また、読書をしていても記録を取っていない児童も多く、名人や達人の人数もあまり増えなかった。

・読書旬間の取り組み等を行ったことで、短期的ではあるが、図書室を利用する児童は増えた。

・支援員と連携を取りながら選書を行っているので、少しずつではあるが、図書室の蔵書バランスが修正できている。

⇒図書室は毎日開放することで、少しでも児童の生活の中に読書の時間を増やせるようにしていく。また、図書の時間以外に各教科の学習でも学校図書館を活用してもらえよう、今後も活用方法等を教員へ周知していく。

⇒蔵書バランスの調整は今年度も引き続き意識して選書を行っていく。

## 7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

・全体的に読書名人、達人の達成率は低かった。しかし、本を読んでいないわけではなく、その都度記録を取っている児童が少ないことが原因だと考えられる。また、図書を資料として活用した場合、読書の記録に残さないことも多く、正確さに欠ける部分もある。来年度は学習でも活用される学校図書館を目指して目標設定をしていく。

・調べる学習コンクールも含め、読み物としてだけでなく、資料としても活用できるような図書の購入を進めてほしい。

・安定した利用数、貸出数を維持できる学校図書館の運営をしてほしい。